

1 はじめに

私たちは、教師として、学校で働く職員として、「子どもたちのために」を第一に考え、行動する教職員集団でありたい。子どもたち一人ひとりが毎日安心して学校に通い、人との豊かな関わりを通して楽しく学び、一人ひとりが健やかに成長できるように見守り、導いていきたい。

そのために、私たちは児童理解力を高め、子どものよさを伸ばすこと、社会で自立してたくましく生きていくために必要な力を身に付けられるようにすること、そして、子どもたちと私たちが、子どもたち同士が温かい信頼関係で結ばれていることを目指す。

第七小学校の教職員であり、三鷹中央学園の一員である私たちは、保護者・地域の力も合わせたチーム学校・学園としての力を高め、保護者・地域とともに「共育」（共に育む）、「協育」（協力して育む）することを大切にしていこう。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校は、東京都及び三鷹市の教育目標・基本方針に則り、本学園の教育計画、本校の教育課程に基づき、誰一人取り残すことなく子どもたち一人ひとりを大切に育てていく。

2 三鷹中央学園及び本校の教育目標

三鷹中央学園の教育目標

「地域や自他を愛し、自らの未来を主体的に切り拓く、自立した児童・生徒を育成する。」

目指す学園生像

- すすんで学ぶ人
- 感謝と思いやりの心をもつ人
- たくましい心と体をもつ人
- 地域・社会に貢献する人

本校の教育目標

「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間をめざす。」

目指す児童像

- 考える子
- やさしい子
- つよい子
- つながる子

目指す学校像

- 学ぶ楽しさを得られる学校
- 安心して過ごせる学校
- 心身ともに健康でいられる学校
- つながりを大切にする学校

行動には、判断・決断・責任が伴う！
自分や周囲のことも考えた思いやりのある行動を促す

学校経営理念

「自ら考え 行動し みんなと協働しながら 最後までやり抜くななっ子」の育成

3 目指す学校像を具現化するための具体的方策

◎学ぶ楽しさを得られる学校

【目標】確かな学力を育む

【育てたい資質・能力】自ら考え表現し、他者と協働しながら学びを深める力

(1) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する指導・支援の工夫（授業改善）

- 三鷹中央学園小・中一貫カリキュラムに基づいた学園研・校内研の充実（自立した学びを目指した授業改善）と、連続性・系統性のある指導
- 児童の発達段階や特性、学習状況に応じた学習方法や内容の工夫（授業の質の向上）
 - ① めあて（ねらい）の提示、学習の見通しをもつ 【児童の学びの文脈づくりを大切に！】
 - ② 一人で考える、考えをまとめて書く・話す（対話的・協働的に学びを広げ深める学習過程）
 - ③ 学習用タブレット端末の効果的活用（短焦点プロジェクタ等、その他のICTの活用も含む）
 - ④ 自己の学びを調整しながら、粘り強く取り組む姿勢の育成
 - ⑤ 振り返りを行い、主体的に学ぶ意欲や態度の育成
（できたこと、分かったこと、友達の意見で参考になったこと、疑問に思ったこと、他の学習や生活や将来に生かしたいこと、次の時間にやりたいこと等）
- ユニバーサルデザインの視点に基づく指導や環境の整備
- 学力・体力テスト等の結果に基づく児童のつまずきに応じた指導の充実
- 三鷹中央学園スマイルアクションに基づく家庭・地域との協働学習の推進

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実践による言語能力・情報活用能力の向上

- 国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」で言語活動の基礎力を身に付けさせる。
自分の考えを表現する機会の重視
- 全教育活動を通じて、児童が自分の考えを伝える場面の設定と適切な時間の確保
- デジタル・シティズンシップ教育の考えに基づく学習用タブレット端末の効果的活用及び図書館等の活用による情報活用能力の向上

(3) 思考力・判断力・表現力の向上に向けた時間や場の設定

- 既習の知識・技能を活用し、児童同士及び多様な他者との交流や対話による協働的な学びの場面の設定と適切な時間の確保
- 児童自身が自己表現を積極的に行えるようにするための指導・支援、学級づくり

(4) 探究的な学びの充実に向けたカリキュラムマネジメント

- 生活科や総合的な学習の時間を中心として、他の教科等横断的にカリキュラムマネジメントを行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成
- 他者と協働して行う活動、言語により分析、まとめ、表現する活動（比較、分類、関連付けなど考えるための技法を活用）、情報を収集・整理・発信する活動、自然体験やボランティア活動、ものづくり、生産活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの活動を積極的かつ計画的に実施
- 探究学習研修教員を中心とした校内研修、情報交換

(5) 読書に親しんだり、情報を活用したりするための図書館利用の推進

- カリキュラムマネジメントを意識した年間指導計画に基づく図書館利用
- 朝読書、読み聞かせ等、読書活動の日常化
- 学園で連携した読書旬間等の読書活動の工夫と充実
- 家庭と連携した家庭読書の推進

(6) 教員の専門性を生かした指導と協働体制の強化

- 5～6年生における理科、社会、外国語、体育等の一部教科担任制の効果的な実施
- 1～4年生における、一部教科担任制、交換授業、学年合同授業の効果的な実施
- 学年会の定期的な実施による情報共有と協働体制の強化
- 外国語を専門とする教員を中心とした外国語（活動）のチーム・ティーチング

(7) 学習状況に応じた個別の支援、補習学習の充実と家庭学習の啓発

- エデュケーション・アシスタント、教育活動支援員、学習ボランティア等、人財の効果的活用
- みたか地域未来塾（支援員）の活用と充実
- パワーアップタイム（教員）の活用と充実
- 保護者会、各種通信、校支援アプリ等を通じた家庭学習の啓発
（目的・内容・方法の周知、宿題・自主学習の双方を組み合わせた学びの充実）
- 学習用タブレット端末を活用した家庭学習の工夫

安心して過ごせる学校

【目標】豊かな心と人間性を育む

【育てたい資質・能力】自分も相手も大切にし、互いの良さを受容する力

(1) 教員の児童理解力の向上

- 児童の気持ちに寄り添い（カウンセリングマインド）、一人ひとりの立場を考えた対応及び組織的・継続的な指導・支援の充実
- 教員を対象とした教育支援研修会の計画的実施と充実
- 児童が自分の意見を表明できる機会の設定
- 保護者や地域、関係機関との連携の充実

(2) 全教育活動を通じた豊かな心の育成

- 「特別の教科 道徳」では、「考え、議論する道徳」として、児童が話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりできるようにし、道徳的実践力（心情・判断力・意欲や態度）を高めること
- 全教育活動を通して意図的・計画的に児童の心を育てる関わりを行うこと
- 教え、考えさせる指導による、規範意識（挨拶、時間、言葉遣い、決まり等）の向上

(3) 児童が安心できる学校生活の構築

- 児童一人ひとり、児童同士の関わりに心を配り、「いじめ」の未然防止、早期発見・解決、根絶を図ること
- いじめを許さない心と態度の育成（道徳・学活等と関連、学校いじめ対策委員会の活用）
- 長期欠席・不登校児童への丁寧な対応、組織的、継続的な支援（生活指導部、学年・担任、校内別室教育支援員、SC、養護教諭、関係諸機関等の連携強化）
- スクールカウンセラーや A-Room、関係諸機関との連携と教育相談の充実
- 「失敗から学ぶ」指導、「安心して挑戦できる」学級経営
- 登下校の安全指導（交通・防犯）、防災教育、セーフティ教室及び SOS の出し方に関する指導

(4) 教育支援の充実を図る

- 個別指導計画に基づき、一人ひとりのニーズに的確に応える体制の整備
- 教育支援コーディネータを中心とする校内委員会の活性化
- 通常級担任、専科、校内通級教室教員、校内通級教室専門員、教育支援学級の担任が相互に情報交換・共通理解を図る機会の充実を図ること
- 児童の実態に合わせ、校内通級教室、教育支援学級、通常級の児童間交流、理解教育を実施
- 保護者に対する迅速かつ丁寧な組織的対応

(5) 当たり前挨拶をすることができる児童の育成

- 教職員自らが率先して挨拶をすること
- 毎朝の挨拶運動に児童がすすんで取り組むこと
- 学園あいさつ運動や地域と連携した「七小あいさつの日」（毎月7のつく日）を継続し、自発的な挨拶を促す
- 保護者や地域の方、来校者にも児童が自分から挨拶ができるようにすること
- 「ありがとう」「ごめんなさい」「たすけて」が言える指導

心身ともに健康でいられる学校

【目標】たくましく生きるための健やかな心と体を育む

【育てたい資質・能力】すすんで心と体の健康を大切にできる態度・実践力

(1) 健康な体づくりへの児童の意識の向上

- 家庭、地域と連携した基本的な生活習慣の定着（中央学園アクションプランの周知と活用）
- 体力・運動能力向上への取組（なわとび旬間、走れ走れ旬間など）の継続
- バランスのよい食生活指導（食育）、健康な体づくりに関する保健指導の継続

(2) 児童が体を動かすことの楽しさを実感できる取組の工夫

- 朝や休み時間、放課後等の外遊びや運動の日常化、体育旬間の取組の充実
- 体力テストの結果に基づく指導の充実（体力調査ファイルの活用）
- 「学校2020レガシー」としてのスポーツに関する学習や体験活動の継続と充実

(3) 「食」に対する興味・関心の向上

- 給食や食育指導、生活科や総合的な学習の時間の学習等を通し、三鷹野菜への興味・関心をもたせること
- 野菜を育てる、調理するなどの体験的活動の充実
- 給食だよりを生かした食育指導の充実
- 衛生面に配慮した配膳、バランスのよい食事のとり方、食事のマナー等の給食指導の徹底
- 地産地消の学習や給食メニューの考案の学習、フードロスに関する学習等の継続と充実

(4) 感染症に対する児童の不安軽減と基本的な感染防止対策の日常化

- 感染症に対する正確な知識を身に付け、自ら感染予防に取り組むこと
- 教職員の感染症防止対策の共通理解と共通行動
- 家庭と連携した感染予防に対する理解と協力の要請

つながりを大切にする学校

【目標】人や地域とより良く関わり、自分を生かす力を育む

【育てたい資質・能力】思いやりの心で多様な他者と関わる力、自己実現に向けて挑戦する力

(1) 地域社会や多様な他者と関わる、つながる意識の醸成

- コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の充実
- 学園の児童・生徒同士、教職員同士、幼・保各園、地域等、多様な他者との交流活動を推進
- 人とつながる言葉（「ありがとう」「ごめんなさい」「たすけて」など）が言えるための継続的な指導
- 地域行事への積極的な参加の促し
- 校内通級教室及び教育支援学級に対する理解教育及び交流活動の充実
- 児童自ら主体的に企画・運営する様々な交流活動の推進（実行委員制度の活用と推進）

(2) 学校・家庭・地域が「共育」「協育」という思いを共有し、一緒に児童を育てることを目指す

- 本校の教育課程や育てたい児童像を家庭・地域・学習ボランティア等と共有し、協働して取り組む「共育」「協育」活動を推進
- 学校や子どもたちを「縁」とするスクール・コミュニティの創造
- 地域の共有地「コモンズ」として学校施設を最大限に生かした、学校3部制の推進
- 児童の思いを生かし、地域の力を活用した「なないろ広場」の充実
- 「花壇」「畑」作りに関する地域との連携
- 地域と連携した「七小あいさつの日」（毎月7のつく日）を継続し、自発的な挨拶を促す

(3) 地域と連携した防災教育の推進

- 三鷹SCサポートネットと連携した防災教育の推進
- 連雀コミュニティセンター等と連携したミニ防災訓練の実施（隔年）
- 三鷹市総合防災訓練、おやじの会による防災キャンプ等、地域の防災に関する取組への積極的な参加の促し

(4) キャリア教育の推進

- キャリア・アントレナーシップ教育の視点に基づく活動を通して、様々な人（児童・生徒、さくら学級、幼保各園、保護者、地域等）との関わりの中で、「自分はだれかの役に立っている」「自分は将来こうなりたい」という思いをもてるようにし、自己有用感を高めていくこと
- 各活動後の振り返りを行い、自己実現に向けて挑戦しようとする意欲・態度の育成（できたこと、分かったこと、参考になったこと、疑問に思ったこと、他の学習や生活や将来に生かしたいこと、今後やりたいこと等）

4 「目指す児童像」の実現に向けた教職員の行動指針

(1) 学び続ける

① 高い志をもち、主体的に職務に取り組む

- 質の高い教育の実現に向け、(前年踏襲にとどまらず) 様々な取組を自分から提案していくこと
- 自身の職務の課題に対して自ら解決策を提案し、周囲の助言も受け入れながら解決を図ること

② 同僚性を発揮し、助け合い、高め合う教職員集団をつくる

- お互いの働きぶりに関心をもち、協力し合い、学び合いながら職務に取り組むこと
- 日常にお互いの授業を見合い、それぞれの知識や経験を行き来させながら、相互に授業力を高め合うこと
- 校内研、学園研、鷹教研や市・都の様々な研修に参加し、意見や質問をしたり、自身の授業で実践したりすること、学んだことを校内に広めること
- 分掌ごと、学年ごとでのOJTを充実させること
- 自主研修会（7UP）への講師または受講者として積極的に参加すること

③ 児童、保護者、地域、他の教職員の声に耳を傾け、受け止め、考える

- 相手を大切に思い、相手の話を傾聴すること
- 相手の立場を想像し、その上で柔軟かつ適切で、迅速に対応すること

④ 学校の中だけでのことにとどまらず、社会に目を向け、自己啓発に努める

- アンテナを高くして、ニュース、新聞、書籍等から学ぶこと
- 様々な学びの機会を自身で見つけ、やってみること

(2) 信頼される

① 法令の遵守とサービスの厳正を徹底し、常に人権意識を磨き続ける

- 法令等に基づき、当たり前のことを当たり前適切に行うこと
- 服務事故は、児童、保護者、地域、学校、自身や家族をも傷つけることを常に意識すること
- 人権を大切にす観点からも児童に対する言葉や行動については十分に配慮すること
- 多様性の時代であることを認識し、常に人権意識を磨き続ける（アップデートする）こと

② 危機管理意識を高くもち、報告・連絡・相談を確実に行う

- 児童に関わること、保護者や地域等への対応について、少しでも心配なことがあれば、まずは主幹教諭、学年主任に報告・連絡・相談すること
- 管理職への報告・連絡・相談を迅速に正確に行うこと（事案発生時、進捗状況、結果及び今後）
- 児童の活動に際しては、常に最悪の事態も想定し、対応策を準備しておくこと

③ 相談や苦情に対し、迅速かつ丁寧に対応する

- まずは相談や苦情を否定的に捉えることなく、じっくりと話を聞くこと
- 判断が難しいとき、事実確認が必要なときはその場で回答せず、一度預かって検討すること
- 報告・連絡・相談をした上で、確認した事実や対応策について、丁寧に説明すること
- 解決後、相手方にあらためてその後の状況確認をすること

④ 家庭や地域への適切な情報の発信とコミュニケーション

- 各種たよりやホームページ、校支援アプリ等での情報発信を適切に行うこと
- 保護者や地域の方と会う機会に、積極的に挨拶や会話を交わすこと

(3) 安心できる

① お互いに配慮し協力し合える温かい職場をつくる

- コミュニケーションを大切にし、様々なことを相談できるようにしていくこと
- 職務にあたっては、それぞれが過度の負担にならないよう支え合うこと

② ライフワークバランスの意識をもち、自らのウェルビーイングの実現を目指す

- しっかり児童に向き合うことができるようにするために、自身の働き方について考えること
- 週に1度のマイ・ノー残業デーをもつことができるようにすること
- 一人ひとりのウェルビーイングを目指し、管理職が配慮するとともに、お互いに当事者意識をもって追求していくこと

③ 働き方改革を推進して業務の効率化を図り、教育の質の向上につなげる

- 「働き方改革を実現するための心得7か条」を意識して実践すること
 1. 時間と優先順位を決めて仕事を進める
 2. お互いの仕事に関心をもち、情報を共有・活用する
 3. ICTを有効活用し、業務・会議等の精選・効率化を図る
 4. 危機管理意識を高くもち、けが、トラブル、苦情等の対応は、必ず報告、相談する
 5. マイ・ノー残業デーを設定（宣言）し、実行する
 6. 出張後は、原則、直帰する
 7. 家庭、地域、関係機関と連携し、積極的な人財活用を行う

5 個人と社会のウェルビーイングの実現を目指して

学校の主役は子どもたちである。したがって、学校は子どもたちのためにあることは言うまでもない。それと同時に、学校で働く教職員にとっても、学校に子どもを通わせる保護者にとっても、そしてより良いまちづくりを願う地域の方々にとっても大切な場所であると考えている。学校や子どもたちを「縁」として様々な人と人がつながり、学校に関わるすべての人と手を携えながら「**みんなが笑顔で わくわくする学校**」となるよう、チーム七小・チーム三鷹中央学園としての力を高めていきたい。

「みんなが笑顔で わくわくする楽校（学校）」の創造 ～個人と社会の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指して～

- 子ども…「今日は友達や先生と何をしよう」「明日も学校が楽しみ！」とわくわくしながら登校する
- 教職員…個性を発揮し、専門性を高め、子どもたちと共に成長することにわくわくする
- 保護者…学校と積極的にかかわることで子育てを楽しみ、「共育」「協育」することにわくわくする
- 地 域…より良いまちづくりに向けたより良い学校づくり、地域を担う宝の「共育」「協育」にわくわくする

学校や子どもたちを「縁」
としたつながり

・三鷹中央学園 CS 委員会 ・ななサポ ・地域の関係団体、関係機関 ・幼保小中連携校（園）・地域人財等